

2003年1月19日

大阪教区

司祭各位

大阪教区典礼委員会

はじめに

大阪教区典礼委員会では、2001年全国典礼担当者会議の準備のため、地区長各位にお願いして「ゆるしの秘跡」に関するアンケートを実施いたしました。回答期間が非常に短かったにもかかわらず、多くの回答が寄せられました。統計的に大阪教区の実状を浮きぼりにすることまではできませんでしたが、大阪教区では多くの小教区が、おもに四旬節と待降節、そして平和旬間にも共同回心式を行っているにもかかわらず、実際には「ゆるしの秘跡」を受ける信者数が減少の傾向にある、ということなどが読みとれました。

2003年1月15日に発行された使徒的勧告『和解とゆるし』(1984年12月2日)のなかで教皇ヨハネ・パウロ二世は、「ゆるしの秘跡」が危機に直面していると繰り返し述べ、現実的な自発性を欠いた秘跡の実践による否定的な影響を指摘しておられます。資源の不公平な分配、民族・文化・宗教に対する差別、暴力やテロリズム、分裂や戦争などの責任は、無関心や逃避、怠惰や恐怖心を含む個人的な罪の積み重ねにある、ということです。そのために教会が、ゆるしと和解に奉仕する任務と責任を果たすためにも、新しい『ゆるしの秘跡の儀式書』の内容を理解し、形式的な方法や習慣的な方法から離れてその豊かさを生かすようにと、訴えておられます。

ここにお送りする「回心のためのことばの祭儀」式次第は、カトリック儀式書『ゆるしの秘跡』78ページ以降に載せられている式文と、91ページ以降の連願とを編集し、多少の加筆を施したものです。この祭儀は「ゆるしの秘跡」ではありませんが、準備の仕方によっては、多くの方が神のあわれみに触れ、キリストとの出会いを深める祭儀となる可能性を秘めたものです。各小教区でこれまで行ってこられた四旬節期間中の取り組みに加えて、この式次第をぜひご利用ください。個人としても共同体としても「ゆるしの秘跡」をいっそう実り豊かなものとするために有益な祭儀だからです(儀式書78項参照)。

使い方

1. できるだけ早い時期に、それぞれのブロックや小教区で「回心のためのことばの祭儀」を行う日時を決定し、ポスターを作成したり、毎週の「お知らせ」に記載するなどして、周知徹底してください。主日のミサや黙想会などの機会に「ついでに回心する」のではなく、はじめから「回心を求めて集まる」ために、できれば主日のミサとは別の時間帯(平日の晩など)

に実施することをおすすめいたします。

2. 「回心のためのことばの祭儀」に続いて個別の「ゆるしの秘跡」を行うこともできますが、むしろ、四旬節の間いつでも 所属小教区以外でも 「ゆるしの秘跡」が受けられることを、あわせてお知らせくださるよう、お願いいたします。
3. この祭儀は、「ゆるしの秘跡」ではありませんので、洗礼を受けていない方々も最初から最後まで安心してご参加いただけます。信者ではない家族や親しい友人と一緒にご参加ください、と呼びかけてはいかがでしょうか。
4. 司祭が司式するものとして作成されていますが、信徒に司式を委ねることもできるように配慮しました。その場合は、小さな字で書かれた説明をご参照のうえ、ご準備くださるようお願いいたします。
5. この式次第は司式者用です。会衆に配布するものではありません。司式者がていねいに読めば、耳で聞くだけで理解できますし、受け答えもできます。「良心の糾明」の部分では、特に沈黙を大切にしてくださいようお願いいたします。
6. 「良心の糾明」とは、不安に満ちた心の中でなされる自己反省というものではありません。「それは教会によって示された福音的規範によってなされ、またわたしたちの教師であり生活の模範であるイエス・キリストご自身とともに、またわたしたちを善と完徳に招かれる天の御父とともになされる誠実で冷静な行為です」(『和解とゆるし』31項)。
7. この式次第どおりでなければならないというようなものではありません。編集しなおしたり、一部だけ使用したりするなど、ご自由に工夫して下さって結構です。
8. 恐れ入りますが、ご利用になられたご感想やご意見、提案や工夫、信徒の皆さんの反応などを、教区典礼委員会宛てにお送りください。また、この式次第は使わず、独自の式次第を作成して実施された場合は、それらの式次第などもお送りいただくと幸いです。締め切りは5月末日です。ご協力をお願いいたします。

送り先

カトリック大阪教区典礼委員会の e-mail address: liturgy.Osaka@catholic.ne.jp

〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-12-8 共同宣教司牧梅田チーム 小田武彦

F A X 06-6371-4031

司式者用式次第

回心のためのことばの祭儀

四旬節 - 世界に救いをもたらしたキリストの過越の神秘

開 祭

立つ

入祭の歌（回心への招き）

典礼聖歌 144 「谷川の水を求めて」

あいさつと招き

司祭 わたしたちを愛し、ご自分の血によって罪を清めてくださったイエス・キリストと、父である神からの恵みが皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

集会祭儀司式者が司式をする場合、次のようなあいさつで始めることができる。

司式者 わたしたちを愛し、ご自分の血によって罪を清めてくださったイエス・キリストと、父である神からの恵みがありますように。

一同 アーメン。

はじめの歌と司式者のあいさつの後、司式者は、信者が罪においても悔い改めにおいても互いに結ばれていること、また共同体全体の聖化のためにも、一人ひとりが回心に招かれていることを短く説明する。

司式者は次のようなことばで祈りに招く。

司祭 皆さん、わたしたちの罪のために十字架につけられたキリストを仰ぎ、回心の恵みを祈りましょう。……

いつくしみ深い父よ、

あなたは ひとり子の受難によって、

わたしたちに いのちを与えてくださいました。

悔い改めによって、わたしたちが御子の死に結ばれ、

すべての人とともに、その復活にもあずかることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

ことばの典礼

聖書朗読

儀式書『ゆるしの秘跡』97～98ページから、他のふさわしい福音箇所を選ぶことができる。集会祭儀司式者が司式をする場合、「主は皆さんとともに」を省く。

司祭 回心を呼びかけておられるキリストのことばを聞きましょう。主は皆さんとともに。
一同 また司祭とともに。
司祭 マルコによる福音。
一同 主に栄光。

(マルコ 10・32-34 42-45)

一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

司祭 キリストに賛美。
一同 キリストに賛美。

座る

説教

司祭や助祭が不在の場合は、カトリック大阪教区が試用版として作成した「司祭不在のときの主日の集会祭儀」11～12ページを参考にしながら、集会祭儀司式者による勧めのことばや、分かち合いなどの時間をもつことができる。

立つ

詩編による祈り

典礼聖歌 6「あなたのいぶきをうけて」

座る

反省(良心の糾明)

司祭 神に対しておかした罪をみとめましょう。……

神との交わりにおいて

司祭 わたしたちは、キリストに結ばれて神の子となる恵みをいただきました。しかし、わたしたちはその恵みにふさわしい者として日々、あゆむことができているでしょうか。

(沈黙)

司祭 聖書は「いつも喜んでいなさい」と教えています。それでもわたしたちは神の愛に信頼して、順境にあっても、逆境にあっても、いつも心の奥底に信仰

のよろこびを保っていたでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 わたしたちは主が教えてくださった「主の祈り」を唱えて「わたしたちの罪をおゆるしてください」と神に願っているながら、自分はゆるされた者としてふさわしく人をゆるすことができているでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 「祈りは神との対話である」と言われています。では、わたしたちは、神と真に語り合う時間を日々の生活のなかで取っていたでしょうか。一方的に神に願い事をしたり、神のみ旨を求めることなく祈りのことばだけをただ、習慣的に繰り返しているようなことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 聖書は「神と富とに仕えることはできない」と教えています。金銭は生きるために必要なものですが、自分が金銭を支配している、あるいは支配されている、ということはなかったでしょうか。地上の財産にとらわれ、富を追求して正義を曲げようとしたことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

自分自身に対して

司祭 わたしたちは神の似姿として創造されました。さらに神は、わたしたちのからだを神殿とされ、聖霊が宿るようにしてくださったのです。しかし、わたしたちはその恵みにふさわしい者として日々、あゆむことができているでしょうか。

(沈黙)

司祭 わたしたちは神からいただいた自分自身の心とからだを、真にたいせつにできていたでしょうか。情欲や快樂のとりこになり、神からいただいたこのからだを自分のほしいままにして、もてあそぶようなことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 神はキリストの贖いによって わたしたちをあらゆる束縛から解放し、自由という恵みを与えてくださいました。しかし、わたしたちは自由と我儘とをはき違えて振舞うことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

周囲の人びとに対して

司祭 聖書は「神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです」と教えています。わたしたちは互いに愛し合うことによって、神を見るようになるのです。しかし、わたしたちは「互いに愛し合いなさい」というキリストの掟に生きる者として、それにふさわしい日々を過ごしてきたのでしょうか。

(沈黙)

司祭 主は「小さな者にしてくれたことは、わたしにしてくれたことなのである」と仰せになりました。そのことばを知っていながら、自分が背負う重荷の不平等を言うばかりで、隣人の肩にのしかかった重荷には無関心のままだいことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 キリストにおいて兄弟姉妹となった周囲の人びとのために、どれだけ祈り、また励ますことができていたでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 たとえ悪気はなくとも、人をゆるすにおそく、裁くにきびしいわたしたちです。神の求められる正義よりも、自分たちが満足できる正義を勝ち取ろうと、強い態度を示して相手を追い込んでしまうようなことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 わたしたちは 自分でも気づかないうちに神から離れ、家庭に、社会に、また世界に、平和をもたらすことができないまま、自分自身でもキリストの平和を見失って孤独と不安に苛まれています。この心の暗闇は他者をも覆い、さらに刺々しい態度で相手に向かい合っていることはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

司祭 キリストに結ばれ、たがいを受け入れ合い、尊重し合う生き方を与えられていながら、そのために苦しむことを巧妙に避け、不正に組し、自分の劣等感を隠すために隣人を見下し、ときには圧迫を加えてまでして 優位に立とうとしたことはなかったでしょうか。

(沈黙)

司祭 主よ あわれみたまえ。

一同 主よ あわれみたまえ。

回 心

立つ

一般告白

反省の後、一同は一般告白をする。

一同 全能の神と、兄弟の皆さんに告白します。

わたしは、思い、ことば、行い、怠りによって、たびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟の皆さん、罪深い わたしのために神に祈ってください。

続いて司式者は、一同が復活祭を喜びを持って迎えることができるよう、回心と隣人愛のしるしとして、何か具体的な実践、たとえば貧しい人を助けたり、病人を訪問したり、不公平、不正を是正することなどをすすめる。

主の祈り

一同で主の祈りを歌うか唱える。

司祭 主キリストが教えてくださったように、罪のゆるしを求めて父である神に祈りましょう。

一同 天におられる……

司祭 いつくしみ深い父よ、
わたしたちを、すべての悪から救ってください。
悔い改めによって、御子の受難に結ばれる わたしたちが、
その復活の喜びに あずかることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

撒 水 (司祭不在のときはおこなわない)

司祭 神のゆるしをいただき、古い人を脱ぎ捨てて新しい人とされた洗礼の恵みを思い起こして、聖水を受けなさい。

平和のあいさつ

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。

一同 また司祭とともに。

集会祭儀司式者がおこなう場合、上の2行は省く。

司祭 たがいに平和のあいさつをかわしましょう。

一同 主の平和。

閉 祭

結びの祈り

司祭 福音にしたがって生きる決意を新たにして祈りましょう。……

主イエス・キリスト、あなたは心の柔和、けんそんな方。

あわれみ深く平和に満ち、貧しい一生を送り、

義のために いのちをささげ、

救いの道を示すために、十字架を通して栄光に入られました。

わたしたちが福音を喜んで受け入れ、

あなたの模範にならって生活し、

神の国の喜びにあずかることができますように。

一同 アーメン。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が+皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

集会祭儀司式者が司式をする場合、次のようなことばで祈りを結ぶことができる。

司式者 全能の神、父と子と聖霊がわたしたちを祝福し、すべての悪から守り、永遠のいのちに導いてくださいますように。

一同 アーメン。

司祭 回心のためのことばの祭儀を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

一同 神に感謝。

結びの歌（神への感謝）

典礼聖歌 177 「わたしの心は神のうちに喜ぶ」